



校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第3号 令和4年4月28日

小美玉市立美野里中学校

「あいさつ」に関するうれしい話

先日、校門前で下校指導をしていたところ、自転車に乗った男の方が、「この学校の先生ですか。」と私に話しかけてきました。私が「はい、そうです。」と答えたと、その方は、「この学校の生徒は、いつもあいさつをしてくれるんです。」とおっしゃってくださるのです。

また、別の日に、私が学校運営協議会の委員を務めている小美玉市立竹原小学校の会議の中で、委員の方が、「竹原小の卒業生の美野里中生は、地域ですれ違うとき、よくあいさつしてくれる。」とおっしゃるのです。複数の委員の方々が、「おとなでも、あいさつができない人がいる中で、美野里中生は、よくあいさつができる。」と、うなずき合ってくださいるのです。

私は、本当にうれしく誇らしい気持ちになりました。美野里中生は、校外でも、地域の方々にあいさつができるんだということを改めて実感しました。また、地域の方々がよく子供たちの姿を見てくださっていることにも、ありがたい気持ちを抱きました。あいさつは、人の気持ちをすがすがしいものにする力をもっています。入学した1年生の中にも、朝から素晴らしいあいさつができる生徒がいます。

- ㊦ 明るく
- ㊩ いつも
- ㊦ 先に
- ㊦ 伝わるように



あいさつは、まず「明るく」です。明るいあいさつをすると、自分も他人も明るい気持ちになります。

そして、「いつも」です。あいさつができる日とできない日がないように、くもっていても、雨が降っていても、休み明けでもできるようにしていきましょう。

さらに、「先に」です。「相手に言われてするのは、あいさつではなく、返事だ。」という人もいます。「先にするのがあいさつ」という気持ちでやっていきましょう。

あいさつで難しいのが「伝わるように」です。目を見て、にこやかな表情であいさつしましょう。きっと、相手の心に伝わって、よりよい人間関係づくりの第一歩になるはずですよ。

今年度も、定期的に生徒会役員が、校門前であいさつ運動をしてくれていますが、みんなでそれに応えていきましょう。元気なあいさつは、美野里中学校をますます活気付けてくれることを確信しています。